

明日のビルクリーニングに思う

快適な生活住環境を創りだす 意義深く誇れる仕事

株式会社第一ビルメンテナンス 代表取締役

三浦 光一

ビルメンテナンスに深い愛着を抱き、明日の発展を願って業界や企業を導くリーダーが、将来のあるべき姿、そのビジョンを語る。

喜ばれ、達成感を感じて起業

昭和56年ごろに私の友人が新しく始めた仕事がありました。「人がいなくて困っているから」と言われ、日曜日に手伝ったのが定期清掃の仕事でした。小さな商社に勤めていた私にとって、ビルメンテナンスのような仕事があることに驚くとともに、興味を持つことになりました。

27歳で起業することを決めていた私は、何か行動を起こさなければと勤めていた会社を退職。28歳のときにアルバイトとしてこの仕事に飛び込みました。私が些細な気遣いをすることでお客様がダイレクトに喜び、感謝されることに大きな喜びを持ちました。そのときに私は、この仕事は単なるビジネスではなく人の役に立つ仕事、人に喜ばれ感謝される、とても達成感のある仕事であると感じました。

具体的に行動すれば、すぐに結果が出て評価される。ビジネスとしてはストック産業であり、お客様からの信用が築ければ、極めて安定的な収益を得られる産業であることに気づきました。私はいてもたってもいられなくなり、半年後に個人営業を始め、1年後に会社を立ち上げました。

しかし、この仕事は若者に敬遠されがちで、3K（キツイ、キタナイ、キケン）といわれる職業でもありました。若い人たちとともに仕事をしていくた

めには、この職を誇れる職業に変えることが重要と考えました。また、何もない会社がお客様から仕事をいただくには、信用していただき、安心して仕事が出せる会社になければなりません。私はお客様から信用と安心を得るために「約束を守ること、誠実であること、嘘をつかないことを大切にする」をモットーに掲げて仕事をしてまいりました。

環境整備の徹底に取り組む

しかし会社の成長に伴い、気がつくと、社員一人ひとりの考え方の違いにより、必ずしもお客様の支持を得ることができなくなっておりました。私はもう一度お客様に信用、信頼される会社になければ将来はないと考え、平成9年にわが社独自の取り組みとして、全社員で環境整備を徹底して行うことを宣言し、実行していきました。

この環境整備とは「安全、礼儀、規律、清潔、整頓、衛生」の6つの活動であり、その目的は「心を磨く、自分を磨く、技術を磨く」こと、その技術力で現場を磨くことにあります。それによって私たち一人ひとりの仕事に対する自信、誇り、プライドが生まれると考え、全社員に協力を求め、実施してまいりました。お客様の現場を快適にし、キレイにすることが私たちの仕事であり、その実現のためには社員一人ひとりが生業であるビルメンの仕事を理解

し、自分を鍛え、自分の心を磨く必要があります。

そのため、わが社の朝一番の仕事は管理職のトイレ磨きから始まります。そして、朝礼終了後には朝の環境整備として全社員で45分間、本社・支店・営業所で、事務職も含めた全社員が作業着に着替えて、事務所の周りの清掃を行っております。

社員の幸福と社会貢献を経営理念に

わが社の経営理念は「全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に人類社会の進歩発展に貢献すること」です。私たちの目指す「物心両面の幸福」とは、経済的な安定や豊かさを求めていくとともに、仕事の場での自己実現を通して生きがいや働きがいなど、人間としての心の豊かさを求めていくことです。

経営理念とは経営者の思いから生まれるといわれます。まさしく私の思想、信条、哲学はこの環境整備を行うことで生まれました。社員が真摯に一生懸命に、環境整備に取り組む姿を見て、創業16年後の平成11年にこの理念が生まれたのです。

そして、この理念はお客様の繁栄と喜びがなければ追求することはできません。この仕事を「何のために、誰のために行っているのか」を考えると、仕事の本質が見えてきます。本質を見失わないために、私たちは絶えずこの問いを自分の胸に問いかけることにしております。

この仕事は、自分のためでも会社のためでもなく、お客様のためにあります。お客様の繁栄と喜びを追求することが、結果としてわが社の繁栄と喜びにつながり、それがわが社の理念の追求であることを全社員で共有するように努めております。

わが社の社員は「環境エンジニア」

ビルメンテナンスの仕事の意義は、「ブロークンウィンドウズ理論」にあると私は考えております。この理論を基に1994年、R・ジュリアーニ氏が治安回復を公約にニューヨーク市長に当選しました。「世界有数の危険な街、犯罪都市の街、汚い街」と言われていたニューヨークのゴミをなくし落書きを排除し、小さな犯罪を見逃さず取り締まりました。

その結果、市長就任から5年間で犯罪の認知件数は、殺人が67.5%、強盗が54.2%、婦女暴行が27.4%

も減少し、見事に治安を回復させました。そのおかげもあり、ニューヨークの中心街も活気を取り戻し、住民や観光客が戻ってきたと言われます。

ビルメンテナンスは「快適な生活住環境を創り出す産業」であり、この例を見るだけで重要性がよく理解できます。その意義深い仕事をしている社員を、わが社では「環境エンジニア」と名づけました。単なる清掃する人、設備の管理をする人と考えてはいけない、誇りを持ちたいとの考えからです。

また、私たちの仕事は「安全で衛生的で快適な人にやさしい環境」を提供することであり、それをわが社では「安らぎと活力のある場を創り出す」と表しております。「安らぎ」とは、心の中が平穏であり、心穏やかなことで、そこからは怒り、恐れ、悲しみ、不安、不快が取り除かれます。「活力のある場」とは、明るく前向きに生きる力があふれ出てくる環境であり、それを創り出す人、生み出す人こそが「環境エンジニア」とであると定義しております。

志を大きく、誇り高い会社を目指して

これから建物がさらに大型化、複合化していきます。高層化も進み、世帯数が1千戸、2千戸となるタワー型マンションが増え、まるで一つの街と化してきています。私たちの仕事は、そこに集う人たちの24時間の安全と快適な環境、人に優しい環境を提供することにあり、ますますこの仕事の重要性を感じざるを得ません。

わが社はまだまだ未熟です。しかし、志だけは大きく持ちたいと考えております。わが社と関わったすべてのお客様、地域社会、日本の国から「第一ビルメンテナンスという会社があって、本当に良かった」と言われるような誇り高い会社になることを志して、日夜邁進していきたいと考えております。

Profile ● みうら こういち

1955年岩手県生まれ。子どものころより社長になる夢を抱き、高校卒業後上京。大学卒業時に5年後の会社経営を目指し、商社に入社。縁あって知人の会社を手伝った体験を通じて、清掃業は新しい産業であると確信。28歳で会社を設立し個人営業を始め、翌年の1984年に(株)第一ビルメンテナンスを設立。

